

はじめに

令和7年度、埼玉県環境科学国際センター(CESS)は開設25周年を迎えました。今年度は、小田恵美センター長が就任され、今までにない科学と芸術の融合というさらなる進展に取り組まれました。

令和4年度からスタートした5年間の研究所中期方針も道半ば、二つのセンター、三つのコア、そして四つのタスクフォースとPRパネルがうまく機能し、試験研究、国際連携、環境学習、そして情報発信においてもその活動が見える形になってきました。

研究面では、化学物質・環境放射能担当の谷脇タ希会計年度任用職員、落合祐介主任、蓑毛康太郎担当部長、研究推進室の大塚宜寿副室長が日本環境化学会の環境化学技術賞を受賞されました。また、土壌・地下水・地盤担当の石山高担当部長が全国環境研協議会関東甲信静支部 支部長表彰、研究推進室の茂木守室長、温暖化対策担当の武藤洋介担当部長、資源循環・廃棄物担当の長森正尚担当部長に「生活と環境全国大会」において、2025年度生活環境改善功労者として感謝状が贈呈されました。さらに、水環境担当の田中仁志担当部長が全国環境研協議会総会にて会長賞を受賞されるなど、今年度も外部からCESSの研究活動に高い評価を頂きました。

また、センター職員表彰としてGISを活用しDXプロジェクト賞、そして能登半島地震での災害対応に尽力された土壌・地下水・地盤担当の柿本貴志主任研究員、そして生態園の運営、活性化、自然共生サイトとしての認定に多大な貢献をされた総務・学習・情報担当の宮川武明会計年度任用職員のお二人が選ばれました。

国際連携においては、東アジア酸性雨モニタリングネットワーク (EANET) のVOCsモニタリング活動や、日本学術振興会 (JSPS) の二国間交流事業で、カンボジア、チリ、中国、韓国、マレーシア、フィリピンなどへ研究員を派遣しています。県内では民間企業との連携を支援する社会実装化も着実に進捗しております。

環境学習は、「彩かんかん」をはじめ、生態園の見学者も増え、情報発信においては、彩の国環境大学基礎課程やセンター講演会もハイブリッド方式が定着し、全国から広く視聴していただいております。YouTubeやFacebookなどのSNSをはじめとしたホームページのアクセス件数は年間23万件を超え、新しい時代の流れに対応しております。

「日本一暮らしやすい埼玉県」を環境の面から貢献していくためには、皆様のご理解とご支援を頂けなければならないことはいまでもありません。当センターの活動について様々な視点からの率直なご意見と、ご指導、ご鞭撻を賜うことができれば幸いです。

令和8年3月

埼玉県環境科学国際センター
総長 植松 光夫